

□主な内容

【第 39 回 EST 創発セミナー in 姫路〔近畿〕の参加者募集中！】

来年 2 月 26 日(火)に兵庫県姫路市で「モビリティでよみがえる地方都市空間(仮)」をテーマに第 39 回 EST 創発セミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu59.html>

【第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！】

EST 交通環境大賞の応募を受付中です。〔応募締切:2019 年 1 月 7 日〕

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018.html>

【「Society5.0」の実現へ、スマートシティを加速！～企業、自治体から、スマートシティのシーズ・ニーズを募集～】

国土交通省は今後のスマートシティ施策を推進するうえでの参考とするため、スマートシティの実現に向けた技術・ニーズやまちづくりのアイデアについて、提案の募集を開始します。

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi07_hh_000130.html

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 149 回)

●「ICT 技術を活用した公共交通サービスに対する期待と不安」

【香川高等専門学校 准教授 宮崎耕輔】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 149 回)

●「ソフト・ハード・マインドで自転車のまちづくりを推進」

【静岡市 副市長 美濃部雄人】

3. ニュース／トピック

●第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】

●「Society5.0」の実現へ、スマートシティを加速！～企業、自治体から、スマートシティのシーズ・ニーズを募集～【国土交通省】

●グリーン物流優良事業者表彰受賞者が決定しました～平成 30 年度グリーン物流パートナーシップ会議にて表彰します～【国土交通省】

●山形市と宇治市で宅配の再配達削減に向けた実証事業を開始【環境省】

●グリーンボンド発行へ【トヨタファイナンス】

●「平成 30 年度モーダルシフト取り組み優良事業者賞」を受賞【日立物流】

●電気自動車の気候と大気への影響は従来の自動車より少ないと報告【欧州環境庁】

●G20 首脳へ低炭素型インフラへの大胆な投資を求める【国連環境計画】

4. イベント情報

●第 39 回 EST 創発セミナーin 姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間(仮)～
【2019/2/26】

●バリアフリー整備ガイドライン改定に関するセミナー【2019/1/8】

●低炭素杯 2019【2019/2/8】

●ITS セミナーin 滋賀おおつ【2019/2/14】

●第 9 回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋【2019/3/9-10】

●都市計画法 50 年・100 年記念シンポジウム(第 2 弾) 都市計画の領域と新展開 ー新たなフレームワークの構築に向けてー【2019/5/31】

5. その他

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

●エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

●交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

●電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

●「運輸・交通と環境」を発行しています！

●記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 149 回)

●「ICT 技術を活用した公共交通サービスに対する期待と不安」

【香川高等専門学校 准教授 宮崎耕輔】

最近になって、我が国においても公共交通に関するデータのオープンデータ化に関する取り組みが進められてきています。このような取り組みとあわせて、さまざまな制度や仕組みを含めた技術と ICT 技術との連携によって、公共交通の利便性を向上させるアプリケーションの開発ならびに実用化によって、公共交通の利便性向上が期待されています。たとえば、ヘルシンキやバーミンガムで導入されている whim というアプリケーションは、経路検索を行うことができ、その検索結果から選択した経路の表示はもちろん、その経路のチケットの購入ならびにチケットそのものの機能が備わっています。そのため、このアプリケーションを用いることによって、経路や公共交通の利用方法などの情報を何も知らなくても、行きたい場所さえわかれば、利用したい経路(交通手段)を選んで、その経路を利用して、移動することができます。

我が国において、このようなアプリケーションが導入されれば、『公共交通の常連客以外の乗る際の心理的抵抗』を少しは軽減できると思います。特に、運賃後払いの際には、降車時に小銭がないとか、現金が不足するといった心配も不要です。さらに、言葉の通じない外国人観光客に対する運賃の支払い方法をはじめとする利用方法の説明など、運行事業者側の心理的不安も解消されると思われます。

しかしながら、以下に例示する不安は残ると思います。

1. 漠然とどこかへ行きたいという人、あるいは行きたい場所に関するキーワードを知らない人は、経路検索システムを利用することができない。すなわち、行きたい場所が明確化している人しか経路検索システムを利用することができない。
 2. 経路検索結果に表示されない経路は、存在していないとみなされる。すなわち、利用されない。
 3. スマートフォンなどの携帯端末の利用となることから、端末自体のバッテリー切れへの対応が望まれる。
 4. また、インターネットとの連携によるサービスの展開であるため、サイバーテロへの対策が望まれる。
- など。

ここに挙げた以外にも、様々な不安があると思いますが、ICT 技術を活用した公共交通サービスの展開によって、継続的な利用者の確保ならびに利用者の利便性の確保が可能なことから、環境的に持続可能な交通に資することを期待します。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 149 回)

●「ソフト・ハード・マインドで自転車のまちづくりを推進」

【静岡市 副市長 美濃部雄人】

静岡市は、一年を通じて温暖な気候に恵まれ、北は 3,000m 級の山々が連なる南アルプスエコパークから、南は深さ 2,000m にも及ぶ駿河湾に至るまで、豊かな自然環境に恵まれています。また、世界文化遺産である富士山の構成資産「三保松原」などの景勝地があり、独自の文化や産業を育み、日本の中枢都市として発展を続けてきました。

一方、市域の 8 割を占める山間部は、急峻な地形に阻まれ、残りの平野部は丘陵地が少なく、市街地のほとんどが安倍川や巴川の沖積平野となっています。このため、起伏の少ない狭小な平地に人口が密集し、公共交通機関や自転車の分担率が他都市に比べ高くなっており、更に市街化調整区域の住宅や商業開発を厳に抑制することにより、コンパクトな“まち”を維持してきました。

このことから、日常生活において自転車の利用が最もしやすい「自転車のまち”しずおか”」を目指して、「ハード」「ソフト」「マインド」の 3 方面からの取り組みを進めています。「ハード」とは、自転車走行空間の整備や交差点改良など、自転車の使いやすい空間整備です。「ソフト」とは、交通ルールの啓発・教育など、安全な交通確保のための取り組みで、こども園にキックバイクを配備して自転車に親しむことや、小中学校などの自転車安全教育カリキュラムづくりなどを行っています。「マインド」とは、自転車に乗ることは楽しい、カッコいいという実感を持っていただくために、様々なイベント等を行っています。

本市の自転車施策は、市内の高校生のほとんどが自転車で通学し、その運転マナーの向上が課題であった事情もあり、市街地を念頭に始めてきたところですが、近年、想定以上に山間部へのサイクリング客が増えており、「自転車の駅」などの休憩施設を設置し、街道や中山間地の自転車利用も応援していきたいと考えています。

これらの自転車施策の取り組みにより、市内の自転車分担率 30%を目指します。

3. ニュース／トピック

●第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会及びエコモ財団では、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の応募を受け付けています。以下のウェブページをご覧ください、全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。〔応募締切：1 月 7 日〕

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018.html>

●「Society5.0」の実現へ、スマートシティを加速！～企業、自治体から、スマートシティのシーズ・ニーズを募集～【国土交通省】

政府は、都市・地域の課題を解決するスマートシティの実現に向けた取組みを推進するため、「未来投資戦略 2018」において、「先進的技術をまちづくりに取り入れたモデル都市の構築に向けた検討」を行うこととしています。国土交通省では、内閣府等の関係省庁と一体となって、関係団体、企業、自治体等と連携し、移動・物流、インフラ、防災・気象、エネルギー・環境、観光等の分野を対象に、アーキテクチャーを構築し、都市・地域問題、社会問題に係るソリューションシステムを実装するモデル事業の実施を、来春より予定しています。

そこで、今後のスマートシティ施策を推進するうえでの参考とするため、企業、自治体を対象に、スマートシティの実現に向けたシーズ(技術)・ニーズやまちづくりのアイデアについて、提案の募集を開始します。募集の締め切りは 2019 年 1 月 25 日(金)となります。

http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi07_hh_000130.html

●グリーン物流優良事業者表彰受賞者が決定しました～平成 30 年度グリーン物流パートナーシップ会議にて表彰します～【国土交通省】

経済産業省や産業界と協力し、荷主及び物流事業者等の協力により持続可能な物流体系の構築に顕著な功績があった優良な取組に対し、「グリーン物流優良事業者表彰」を実施しています。

今年度も、12 月 11 日(火)に開催された「平成 30 年度グリーン物流パートナーシップ会議」において今年度のグリーン物流優良事業者表彰が行われました。国土交通大臣表彰は、異業種 3 社による往復共同幹線輸送の取組における新たなロジスティクスの実現した日本パレットレンタル(株)外 5 社が受賞しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000418.html

●山形市と宇治市で宅配の再配達削減に向けた実証事業を開始【環境省】

インターネットショッピングの普及などによって宅配便が増える一方で、ライフスタイルの多様化によって 1 回で受け取れない荷物が増えています。この結果、再配達のためにドライバーの労働時間が長くなるだけでなく、何度も車で訪問することで余分な CO₂を排出しています。

対策として、自宅以外でも荷物が受け取れる「オープン型宅配ボックス」が注目されており、首都圏など大都市を中心に設置が広がっています。

こうした取組を広げるため、山形県山形市と京都府宇治市それぞれの公共施設、商業施設等に「オープン型宅配ボックス」を設置する実証実験が開始されました。

<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/butsuryu/opentakuhaibox/>

●グリーンボンド発行へ【トヨタファイナンス】

トヨタファイナンス株式会社は、国内市場において公募形式によるグリーンボンドを2019年1月から発行すると発表しました。

グリーンボンドとは、企業や地方公共団体等が、グリーンプロジェクト(環境改善効果がある事業であり、再生可能エネルギー事業、省エネ構築物の建設・改修、環境汚染の防止・管理など)に要する資金を調達するために発行する債券です。

トヨタファイナンスが発行するグリーンボンドにより調達された資金は、環境負荷の低い電動車(ハイブリッド車・プラグインハイブリッド車・燃料電池自動車)のトヨタ販売店向け融資、及びクレジット資金に充当される予定です。

<https://www.toyota-finance.co.jp/newsrelease/detail.php?id=1913>

●「平成30年度モーダルシフト取り組み優良事業者賞」を受賞【日立物流】

株式会社日立物流は、一般社団法人日本物流団体連合会が主催する「平成30年度モーダルシフト取り組み優良事業者賞(有効活用部門賞)」を受賞しました。「モーダルシフト取り組み優良事業者賞」の表彰は、物流業界における環境負荷低減と労働生産性向上の観点から、大量輸送機関を利用した輸送の重要性が増している状況のもと、他の模範となる取り組みを行っている物流事業者を表彰するとともに、その取り組みを広く社会に紹介し、モーダルシフトをさらに促進しようとするものです。

受賞した取り組みは、鉄道コンテナのダイヤに合わせた倉庫内作業の設計と、運行遅延・運休等への航空輸送でのバックアップ体制も構築することで、輸送効率の高い鉄道コンテナ輸送を実現したものです。

<http://www.hitachi-transportssystem.com/jp/news/20181129.html>

●電気自動車の気候と大気への影響は従来の自動車より少ないと報告【欧州環境庁】

欧州環境庁(EEA)は、バッテリー式電気自動車(BEV)とガソリン車やディーゼル車など内燃機関車両(ICEV)を、気候変動や大気質、騒音、生態系への影響について比較する調査を行いました。その結果、ライフサイクル全体での温室効果ガスと大気汚染物質の排出量は、バッテリー式電気自動車が従来の自動車より少ないと改めて確認されたと報告しました。

<https://www.eea.europa.eu/highlights/eea-report-confirms-electric-cars>

●G20 首脳へ低炭素型インフラへの大胆な投資を求める【国連環境計画】

ブエノスアイレスで開催された G20 サミットで、国連環境計画(UNEP)は、経済協力開発機構(OECD)や世界銀行とともに報告書を公表し、気候変動への強靱性の高い低炭素型インフラへの投資に大きく舵を切るよう求めました。

報告書では、エネルギー・輸送・建築・水道インフラが、世界の温室効果ガス排出の 6 割以上を占めていることを踏まえて、パリ協定の目標達成のためには、これらのインフラの変革が重要であると指摘しています。そのため、資金の流れを変革するため、1)持続可能で気候変動への強靱性の高いインフラの計画、2)低炭素型社会への移行を加速するイノベーション、3)財政の持続可能性の確保、4)長期的な気候変動に合った金融システムの改編、5)気候のための開発資金の再考、6)市町村に対する低排出型都市開発の権限付与、という 6 つの取組が説明されています。

<https://www.unenvironment.org/news-and-stories/press-release/oecd-un-environment-and-world-bank-call-radical-shift-financing-low>

4. イベント情報

● 第 39 回 EST 創発セミナー in 姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間(仮)～

日時:2019 年 2 月 26 日(火)13:30～16:50

場所:姫路キャスパホール

主催:姫路市、国土交通省 近畿運輸局・神戸運輸監理部、EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu59.html>

● バリアフリー整備ガイドライン改定に関するセミナー

日時:2019 年 1 月 8 日(火)13:30～16:20

場所:九州運輸局 7 階 海技試験場

主催:(一社)日本福祉のまちづくり学会事業委員会・九州沖縄支部、エコモ財団

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000090509.pdf>

● 低炭素杯 2019

日時:2019 年 2 月 8 日(金)10:00～16:30

場所:カルッツかわさき

主催:低炭素杯実行委員会

<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>

● ITS セミナー in 滋賀おおつ

日時:2019 年 2 月 14 日(木)

場所:ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)

主催:東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター(ITS センター)

<http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/seminar/>

● 第 9 回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋

日時:2019 年 3 月 9 日(土)～10 日(日)

場所:前橋テルサ、群馬会館

主催:「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋」実行委員会

<http://zenkoku9th.starfree.jp/>

● 都市計画法 50 年・100 年記念シンポジウム(第 2 弾) 都市計画の領域と新展開 ―新たなフレームワークの構築に向けて―

日時:2019 年 5 月 31 日(金)12:30～15:10

場所:東京大学(弥生講堂)

主催:(公社)日本都市計画学会

<http://www.cpij.or.jp/com/50+100/1st20181117.html>

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecommo.or.jp (担当: 熊井、中道)

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>